

ドライデントの有効性

歯科治療において接着操作は非常に重要な作業である。機能回復の為に補綴物を口腔内に接着するのだが、確実な接着には口腔内を乾燥状態にするという事が必須になってくる。



武内歯科
(横浜市磯子区)
院長 武内 清隆

接着の阻害要因として、唾液の排除が最も重要となる。脱離が多いと信用を失うこととなる。唾液の排除と乾燥した環境とを繰り返すには、ラバーダム防湿がもっとも有効である。しかし日常臨床において全ての症例に対応は難しい。そこで簡易防湿を行うこととなるのだが、ドライデントはそのようなシチュエーションには非常に有効なアイテムである。

ドライデントは、頬側用と舌側用の二種類があり、それぞれサイズが二種類ある。頬側用は、耳下腺乳頭部付近を覆うことにより唾液をほぼ排除できる。当クリニックにおけるドライデントの臨床使用方法を紹介する。

臼歯部支台歯形成時に頬側用を使用すると、頬粘膜の巻き込みを防止する事ができる。また外す時も、ロールワッテを使用している時よりも頬粘膜を痛めにくいように感じる。(図1)

臨床で頻度が高い歯頸部のコンポジットレジン充填時には、特に舌側に処置部位があるときに有効である。通常は舌側にロールワッテを置き簡易防湿を行うのだが、舌によってロールワッテを押し上げられてしまう。ドライデントの舌側用を使用するとポンと押し上げられるストレスから解放される。また、吐唾液管の上に置く事によりさらなる乾燥と押さえを期待できる。(図2)

印象採得時に唾液の混入は不明瞭なマージンになり不正確な作業模型になってしまう為、防湿を確実にを行い、唾液の流入を防ぐ事は必須である。そこで、上顎の印象時には、頬側用を用い(図3)、舌側の印象時には頬側用と舌側用を使用する。ロールワッテを用いて印象採得を行うと、シリコーンが印象材に絡んでしまい中々外せないが、ドライデントを用いるとサーッと印象材から外せる為(図4)、石膏の注入時に模型の変形を予防できる。

最近臨床で用いられるようになった、CAD/CAM冠装着時にも接着操作を求められる為、クラウンの合着操作より、よりよい唾液の排除が求められる為にドライデントを使った簡易防湿を行っている。(図5)

矯正治療時のバンドのセット等にも用いると有効で、ロールワッテを舌で持ち上げられてしまう事が無い為にストレスなく行うことができる。(図6)



図1. 臼歯部支台歯形成時に頬側用を使用



図2. 舌側歯頸部のコンポジットレジン充填時

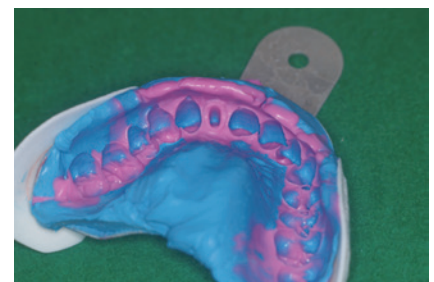


図3. 上顎の印象取得時に頬側用を使用



図4. 舌側印象時には頬側用と舌側用を使用



図5. CAD/CAM冠装着時使用



図6. 矯正治療時のバンドのセット